

# 岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年11月30日現在

## 今月の重点活動

### ■守口だいこん 小学生が収穫体験

11月28日、岐阜市鷺山の守口だいこん生産ほ場において、岐阜市立則武小学校、鷺山小学校の3年生児童と教諭約190名が収穫体験に参加した。

これは、飛騨・美濃伝統野菜「守口だいこん」に対する理解を深めてもらうために開催したもので、生産者代表や守口漬加工業者から、守口だいこんの歴史や栽培、加工について説明し、試食も行った。児童からは、予想を上回る質問があり、生産者を困らせる場面もあった。

その後、生産者などの手ほどきで収穫体験を行い、抜き取っただいこんの長さを競い合ったりした。参加した児童からは、「守口だいこんは思ったより長くびっくりした。長くて抜くのが大変だった。」などの感想があり、収穫体験を楽しんでいた。

農業普及課は、今回の収穫体験の企画、運営の中心となり、収穫体験の成功に向け支援を行ってきた。今後も、守口だいこんを理解してもらうための収穫体験やPR活動の支援を行っていく予定である。(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【収穫体験の様子】

## 活力ある新産地づくり

### ■ブロッコリー 目揃会開催

11月1日、JAぎふ北方支店において、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会の目揃会が開催され、現物を見ながら選別の徹底が図られた。今年は、長雨・日照不足の影響から、昨年より10日程度遅い11月上旬からの出荷となり、日量も少なめで推移している。

農業普及課からは、病虫害対策や面積拡大した年明け品種の管理について指導を行った。今年度は、段ボール出荷に移行したこともあって販売先も拡大し、JAも販売チャンネルを拡げていきたいと意欲的で、今後は徐々に出荷量が増え、来年3月中旬まで出荷が続く予定である。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【目揃会の様子】

## 多様な担い手づくり

### ■いちご ほ場巡回研修会開催

11月8日、各務原市園芸振興会いちご部会のほ場巡回研修会が開催され、4名の生産者のほ場を巡回し、生育状況や今までの栽培管理の内容を確認した後、参加者全員で意見交換を行った。高設栽培と土耕栽培の違いはあるものの、定植後の肥培管理や芽の整理などについて、活発な意見交換が行われた。

生産者からは、他の生産者のほ場を見ることができ、非常に勉強になったなどの意見があり、次年度は育苗中に実施することとなった。

農業普及課では、今後も生産ほ場を巡回し、いちごの単収や品質向上に向けた技術指導を継続していく予定である。

(園芸産地支援第一係・松浦香絵)



【ほ場巡回研修会の様子】

## 売れるブランドづくり

### ■水稲 平成29年度水稲暦及び業務用米への取り組み検討会開催

11月22日、JAぎふアグリパークにおいて、JAぎふ本店・各地区営農次席、JA全

農岐阜、農業普及課が参集し、平成 29 年度水稻曆及び業務用米への取り組み検討会が開催された。

水稻曆については、今年多発したスクミリンゴガイの対策や特別栽培米の除草剤利用などについて検討し、了解が得られた。

業務用米への取り組みについては、平成 29 年度から J A ぎふが「あさひの夢」の複数年契約に取り組む予定であることから、J A の育苗施設や集荷施設の運用の検討が必要ではないかなどの意見が出された。

また、12 月 1 日開催予定の業務用「あさひの夢」栽培研修会の進め方などについても検討した。農業普及課では、研修会での講師などで支援を行う予定である。

(地域支援第二係・山田隆史)



【検討会の様子】

### ■ほうれんそう 根切機実演会開催

11 月 7 日、J A ぎふの則武支店と島集荷場において、ほうれんそうの目揃会が開催された。今年は、9 月の降雨・日照不足の影響から出荷量が少なく、例年より約 1 週間遅い開催となった。

また、目揃会に併せてほうれんそう根切機実演会を開催し、生産者は根の切れ具合を確認するとともに、根切りの作業が速いことに驚いた様子であった。

今後、農業普及課では、関係機関と連携し、根切機の導入による省力化や高品質安定生産に向けた栽培技術情報の提供などを行っていく予定である。(園芸産地支援第一係・川部 知)



【根切機実演会の様子】

### ■祝だいこん は種後 1 か月の生育調査実施

11 月 14 日と 15 日、管内の祝だいこん生産ほ場において、J A ぎふと農業普及課の担当者が、は種後 1 か月の生育調査を実施した。

今年は、10 月 12 日からは種が始まったが、ピークは 10 月 13 日～14 日と例年よりやや遅くなっている。は種後は、平年並みの気温推移であったため、順調な生育となっていたが、11 月に入って一部で湿害が発生するなど、やや生育差が大きくなってきている。

今後、農業普及課では、は種後 2 か月の生育調査を 12 月に実施し、生育状況の把握とその結果に基づく栽培技術情報の提供を行い、祝だいこんの高品質生産を支援していく予定である。

(園芸産地支援第一係・近藤 勝)



【祝だいこんの生育状況】

### ■加工用たまねぎ 定植スタート

本巣市の(農)アグリ石神では、11 月 16 日から加工用たまねぎの定植を開始した。今年は、昨年の約 1.5 倍となる 3 ha を作付けしている。周期的な降雨の影響で、ほ場条件は良くなかったものの、全自動定植機の利用により、一日で 50a 植え付けすることができた。

昨年は、トレー内の欠株が多く、補植に時間を要したが、今年は育苗期の防除を定期的に行ったため、欠株率は約 1 割となり、補植時間も昨年の約半分に抑えられた。

農業普及課では、作業体系に基づいた栽培の提案、防除情報の提供などを引き続き行う予定である。(地域支援第三係・横田京子)



【全自動定植機による定植】